



## 目指すは「共生社会づくり」 東京2020大会ホストタウンの本庄市、トルコとの交流事業を発信

【本庄】 2020年10月18日 17:48 読 本庄市オリンピック・パラリンピック推進室

■画像：トルコを代表する観光地「カッパドキア」  
(写真提供：トルコ共和国大使館・文化広報参事官室)

埼玉県本庄市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における、トルコ共和国の「ホストタウン」として、様々な交流事業に取り組む。目指すはすべての人が暮らしやすい「共生社会づくり」。ギャザリングアート企画などを通じて、「共生社会」について考えるきっかけを発信している。



本庄市は郷土の偉人「塙保己一」を顕彰

### ■郷土の偉人がつないだ「縁」

埼玉の三偉人で、盲目の国学者「塙保己一」生誕の地である本庄市。合併前の旧児玉町は古くからサッカーが盛んな地として、現在でも多くの市民に親しまれている。

そこで、5人制サッカー（ブラインドサッカー）の東京2020大会事前キャンプ地として誘致を開始した。平成30年7月、トルコ側が市内を視察した際、「本庄市を選ばない理由はない」と、環境の素晴らしさを評価。その後調整を重ね、同年12月末に「ホストタウン」として登録された。

しかし、トルコチームは欧州予選で惜しくも敗退。東京2020大会への出場はかなわなかった。

市は「トルコのバラリビアンを応援することには変わらない」として、今大会から正式種目となるパラテコンドー選手団の事前キャンプ地誘致を決めた。



パラテコンドー選手団の事前キャンプ

### ■塙保己一の教えを「いま」に

塙保己一の教え「世のため 後のため」。すべての人が暮らしやすい街の実現に向けて、本庄市は「共生社会」ホストタウン登録を目指している。

同市は事業の一環として、様々な人たちが共生社会を表現する「ギャザリングアート」制作を進めている。日本人、トルコ人、老若男女、障がい者、健常者・・・国境や世代、性別など、あらゆる枠組みを越えて創るひとつの作品。皆さんの顔写真で、本庄市から世界に向けて「共生社会」の在り方を一緒に発信してみませんか。